

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第220号

令和6年(2024)2月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-14-1 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

花めぐり

マイヤーレモン



荏原一丁目の実になったレモンと花

品種や産地が多岐にわたりますが、今回は荏原一丁目で見つけたマイヤーレモンです。持ち主の方は他の柑橘類(オレンジ)とレモンが交雑したものでしょうと話されておりました。

五月にうすピンクの可憐な花が咲き、爽やかな香りを漂わせます。

厚みのある葉に囲まれて、沢山の花が咲き、秋には見事な実を付けます。

普通のレモンと違って、大きくて、果汁がみずみずしく、そのまま食べても、酸味と甘味が口いっぱい広がるということです。

このレモンの木は、日当りの良い場所にあるためか、毎年わたし達の目を楽ませてくれます。東京ではなかなか目にする事の少ない大きなマイヤーレモンの木です。

(中原共和・青木 富代)

今年も荏原第一地区の更なる飛躍を祈念します。本年もよろしくお願ひいたします。(荏原第一地域センター)

合町会の河野義男会長がご登壇。河野会長は、元日に発生した能登半島地震について触れ、被災された方々へお見舞いの言葉を述べられると共に、亡くなった方々のご冥福をお祈りになりました。また今回の甚大な災害を受け、改めて「自助」「共助」「公助」の重要性を挙げ、引き続き防災訓練の実施や、情報の共有を積極的に行うことをお話しになりました。

他方、昨年は区民まつりをはじめ、町会行事を約4年ぶりに再開できたことについて、町会の方々の協力に対し、感謝の意を表明されました。本初顔合わせには、来賓の方々もお招きし、懇談の際に様々な意見を交換されていました。



区政協力委員紹介

荏原第一地区政協力委員会は、22日(月)に、区政協力委員会の並びに荏原第一連合町会新春初顔合わせが、1月22日(月)に、荏原第一地区で行われ、冒頭の会長挨拶では、荏原第一地区の正式競技となり、東京2020パラリンピックでは杉村選手が金メダルを獲得し、盛り上がりを見せました。ルールは、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたりして、ジャックボールと呼ばれる白いボールに近づくかを競うシンボルなものです。年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もが参加できて楽しめます。近隣では荏原区民センターのレクリエーションホールにて、事業部主催にエーシオンホールにて、2回目のポッチャ大会が行われました。

荏原第一連合町会
新春初顔合わせ

誰もが参加できるスポーツ
ポッチャ

少しくまると、玉の軌道が様々で、力加減によって長すぎたり、短すぎたりと、一喜一憂して楽しんでいる」とのことです。競技の後は表彰式を兼ねた懇親会を行い、地域の皆さんとの交流を深めています。

荏原区民センターでは、次回の催し物として、3月1日に落語会(柳家三之助独演会)が開催されます。是非ご期待ください。(小山四丁目・東 美佐栄)

町会活動紹介

グランドゴルフ大会 (小山台一丁目町会)



荏原区民センターポッチャ大会

当町会では河野義男町会長のもと、毎年11月に小山台小学校の校庭をお借りして、子どもからお年寄りまで誰もが参加できるスポーツとして、グランドゴルフの大会を30年近く開催しています。今回はグランドゴルフ大会についてご紹介します。まず事前準備としてボールやクラブ、マーカー等用具を大会役員が用意します。準備が終わると参加者が入場し、開会となります。なお今年度の参加者は36名でした。競技のルールは、ホールインワンは△3打となり、6打で入らない時は7打で計算し、合計8ホール2ラウンドの総打数の少ない人が勝者となります。今回は6名を1チームとして3か所から一斉にスタートし、白熱した試合が展開されました。皆がゲームを楽しんでいる中、昼食のカレーライス作りが進みます。無事にゲームが終了し、成績集計の待機時間には参加者は熱々のカレーライスをほおぼっていました。集計が終わり、皆が食べたところ、表彰式が始まりました。優勝スコアは16ホール36打でした。1位・2位・3位・飛び賞・ブービー賞が授与されました。さらに参加者全員にも参加賞が渡され、大満足の中、大会の幕が閉じられました。(小山台一丁目副会長・金子 正敏)

後地の歴史探訪の集い

『品川用水と朝日地蔵尊は同い年』
216号、217号に続けて掲載しました『後地の歴史』は、今月号で完結となります。
『後地の歴史探訪の集い』(昨年3月)で、参加者の興味を引いたのは、360年前から約300年間、後地交差点を分岐点に流れていた品川用水の存在でした。品川用水は、1663年に細川家下屋敷(現在の戸越公園)の池を作るため玉川上水から水を引いた戸越上水が1666年に廃止となり、翌1667年

に品川領二宿七カ村が灌漑用水としての利用を幕府から許可を得たものです。玉川上水の中で最長級です。昭和初期まで水は綺麗で、長老の親達は泳いだとの事です。昭和15年頃から住宅が増え水質が悪化し、悪臭が漂ったようですが、昭和20年5月の空襲時には、この用水をポンプで汲み上げ消火活動を行い、町内の延焼を防いだという大貢献を果たしました。品川用水はその後暗渠化され(後地交差点は1954年頃)、現在その姿を見ることは出来ませんが、様々な痕跡が残っています。また後地交差点は、古くは『地蔵の辻』と呼ばれていました。交差点には1667年に平塚村の有志により、建立された朝日地蔵尊があるからです。奇しくも同年は品川用水が誕生した年であり、品川用水の獲得により、それまで苦しめられた干害からの回避、延命・子育てへの祈り等、当時の村人達の様々な思いが込められているのでは、想像を逞しく致しました。最後に、『後地の歴史探訪の集い』は、今後も続けてまいりたいと思っています。(小山二丁目西部副会長・石井 一成)



朝日地蔵尊



朝日地蔵尊